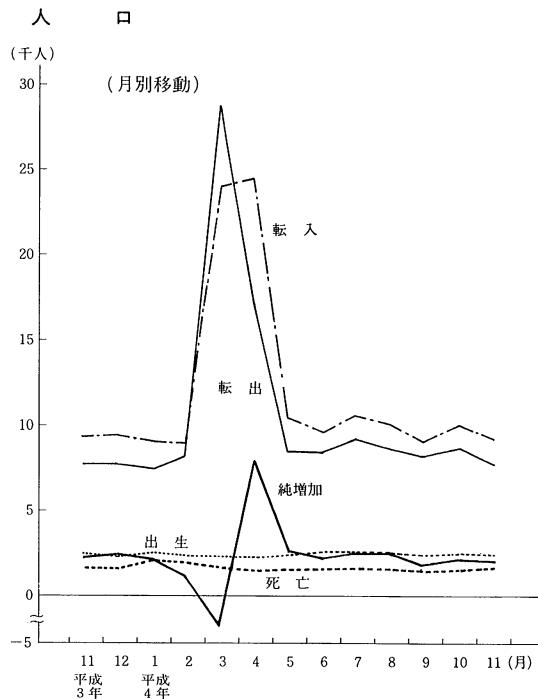
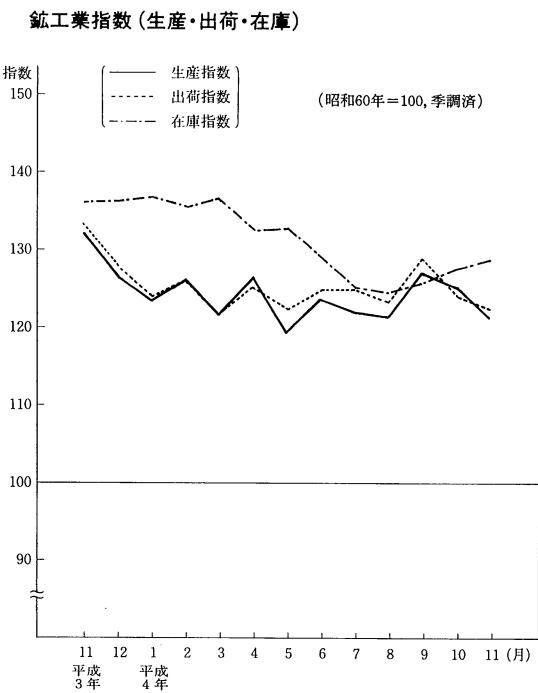
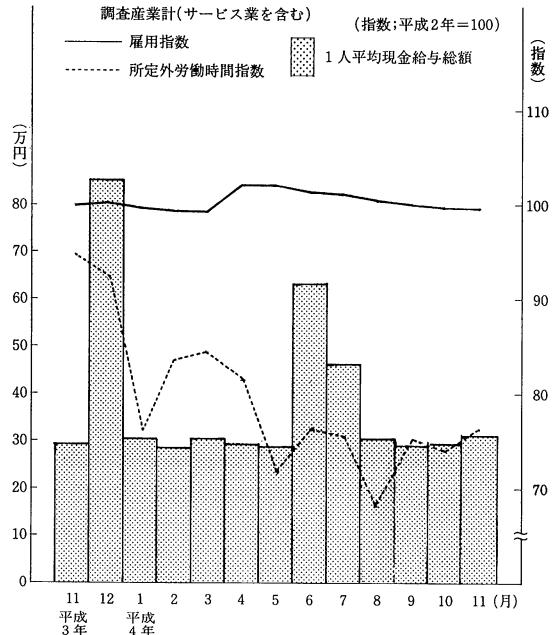


●今月の主な動き

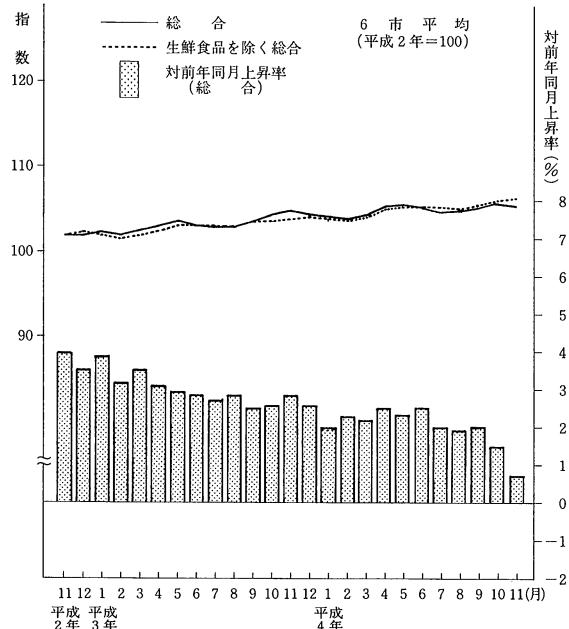
今月の主な動き



賃金・労働時間・雇用



消費者物価指数



今月の主な動き ●

主な動きのあらまし 企画部統計課

■ 人口(12月1日)

本県の人口は、11月中旬に1,958人増加し、12月1日現在で2,908,707人(男1,453,010人、女1,455,697人)となった。

内訳は、自然動態で688人(出生2,359人、死亡1,671人)増加し、社会動態で1,270人(転入9,225人、転出7,955人)増加した。前年同月と比べると25,964人(0.90%)の増加で

ある。

市町村別では、増加が14市47町村、減少が5市17町村、増減なしが1市3町村である。

世帯数についても11月中旬に1,227世帯増加し878,870世帯となった。

■ 賃金・労働時間・雇用(11月)

1. 平均賃金の推移

11月の現金給与総額は、調査産業計で313,269円、対前年同月比6.4%増、このうち、きまって支給する給与は292,237円、対前年同月比2.2%増であった。また、このうち、所定内給与は265,209円、対前年同月比4.1%増であり、超過労働給与は27,028円、対前年同月比13.3%減であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比5.8%増であった。

* この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

2. 労働時間

11月の総実労働時間は、調査産業計で170.3時間、対前年同月比4.9%減であった。このうち、所定内労働時間は155.5時間、対前年同月比3.4%減、所定外労働時間は、14.8時間、対前年同月比19.5%減であった。

3. 雇用の動き

11月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比0.2%増であった。

■ 鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(11月分)

本県における平成4年11月の“鉱工業指数”(昭和60年=100)は、季節調整済指数で、生産が121.7、出荷が123.0、在庫が129.3で、前月比は、生産が△3.3%の低下、出荷が△1.6%の低下、在庫が0.9%の上昇であった。

前年同月比(原指数)は、生産が△7.8%の低下、出荷が△7.7%の低下、在庫が△5.0%の低下であった。

業種別に前月比をみると生産では、化学工業、非鉄金属工業、食料品・たばこ工業が上昇し、鉱業、電気機械工業、石油・石炭製品工業等が低下した。出荷では、石油・石炭

製品工業、非鉄金属工業、一般機械工業等が上昇し、電気機械工業、輸送機械工業、鉱業等が低下した。在庫では、金属製品工業、食料品・たばこ工業、化学工業等が上昇し、石油・石炭製品工業、輸送機械工業、鉱業等が低下した。

特殊分類別にみると生産では、非耐久消費財、耐久消費財が上昇し、資本財、その他用生産財等が低下した。出荷では、その他用生産財、耐久消費財等が上昇し、資本財、鉱工業用生産財が低下した。在庫では、資本財、鉱工業用生産財等が上昇し、非耐久消費財、その他用生産財等が低下した。

■ 消費者物価指数(11月)

平成4年11月の茨城県消費者物価指数(6市平均)は、総合で105.5(平成2年=100)となり、前月比0.4%の下落、前年同月比0.7%の上昇となった。

今月の上がった主な項目……油脂・調味料1.2%、交通1.2%、魚介類1.0%

今月の下がった主な項目……果物17.5%，野菜・海草8.6%

生鮮食品を除く総合は106.4となり、前月比は0.2%の上昇、前年同月比は2.4%の上昇となった。

費目別指標

(平成2年=100)

区分	指數	上昇率(%)		区分	指數	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	105.5	△0.4	0.7	保健医療	102.5	0.1	2.0
食料	103.9	△1.6	△3.4	交通通信	100.3	0.7	△0.2
住居	110.8	0.1	6.0	教育	106.1	0.0	3.4
光熱・水道	102.9	0.0	0.6	教養娯楽	107.8	0.1	3.0
家具・家事用品	101.2	△0.5	0.4	諸雑費	103.5	△0.2	1.4
被服及び履物	112.5	0.0	2.4	生鮮食品を除く総合	106.4	0.2	2.4